

あ と が き

生徒が中学校に入学してくるとき、英語に対して大きな期待を持っています。そして、教師はその期待に応えようとして、様々な努力をしています。ところが、生徒は徐々に英語に対する興味を失っていき、3年生になると不得意科目の一つになっている例が多いのが分かります。これには様々な阻害要因があると思いますが、生徒がよく口にする代表的なことは、「単語が覚えられない」「英文が読めない」です。確かに言葉の学習である以上「覚える」ことは不可欠ですが、ただ単に暗記させていただけでは、無味乾燥な学習になってしまいます。また、英文の中に読めない単語があると、すぐ教師が教えたり、発音練習と称して教師の後にオウム返しをさせていたのでは、生徒はいつまでたっても自力で単語を読む能力は身に付けられません。更に、話す力が付いても、言えたことを文字にできないのでは調和のとれた言語能力とは言えません。

以上のことから、本研究報告書はつづり字と音に絞り、教科書の新出単語を分析し、ルールごとに一覧表にまとめ、更にそれを年間指導を計画の中に位置付けた上で授業実践を行い、考察してきたものです。この方法は、発音指導のごく一方法であろうかと思えます。また、内容についてもまだまだ不十分な面が多々であろうかと思えます。御一読の上、御批判、御批正をいただければ幸いです。

終わりに、本研究に当たり、授業実践に御協力いただいた各中学校、並びに快く授業をしてくださった研究協力員の先生方に厚く御礼申し上げます。

〔執筆 者〕 杉浦 隆夫 新潟県立教育センター指導主事

〔研究協力員〕 島田 信秀 北蒲原郡中条町立築地中学校教諭
磯部 徹 長岡市立江陽中学校教諭
辻川 英夫 五泉市立五泉北中学校教諭（前任校 大島村立大島中学校）
外山 理恵 新潟市立寄居中学校教諭

〔研究協力校〕 吉田町立吉田中学校（代表 塚本 静恵教諭＜平成4年度＞、現岩室中学校教諭）
〃 （代表 西潟 規子教諭＜平成5年度＞）

〔研究協力者〕 Peter Downes 新潟県立教育センター英語指導助手
Regina Patton 新潟県立教育センター英語指導助手
Henry Hughes 西蒲原郡吉田町英語指導助手